

トラベル懇話会 9月例会レポート

山口智子トークショー

山口智子氏

俳優

9月例会のゲストは、ツーリズム EXPO ジャパン (TEJ) のスペシャル・サポーターを務める山口智子さん。俳優業の傍ら世界の音楽文化をライブラリー化するプロジェクトを自ら立ち上げ、訪れた国は約 30 カ国。無類の旅好きでもある山口さんに、その旅行観や旅で出会った人々、音楽文化への熱い思いをトークショー形式で語っていただきました。司会は「旅行読売」編集長の山脇幸二さんをお願いしました。〈文中敬称略〉

世界の音楽文化に耳を傾ける

山口 旅好きの皆さんが集まるこのような場に呼んでいただき、ありがとうございます。私をお呼びいただいたきっかけは、昨年出版した単行本『LISTEN.』だと思います。ですからそのお話しから。

私は 2010 年から 10 年間かけて世界約 30 カ国を巡り、旅先で魅了された美しい音楽文化や、それを受け継いできた人々との素晴らしい出会いを記録してきました。それを一冊にまとめたのが『LISTEN.』です。QR コードも掲載しており、スマホをかざせば音源を聞くこともできます。現在は映像記録を映画作品化する準備も始めています。世界の音と音楽文化を文字と映像ライブラリーで残す『LISTEN.』プロジェクトを考えていて本の出版はその一環です。

司会 このプロジェクトを始めたのはなぜですか？

山口 1977 年に米国から打ち上げられた惑星探査機ボイジャーをご存じですか。こ



の探査機には、地球外の知的生命との出会いを想定し、地球を紹介するための手段として地球上の音や言語、音楽を収録した「ゴールデンレコード」を搭載しています。その試みに触発されて始めたのが『LISTEN.』プロジェクトです。

いま最も素敵だと感じられる音や音楽を『LISTEN.』の中に収録できれば、タイムカプセル的な役割も果たせますし、そこから

何か新しい可能性も出てくるのじゃないかと思ったわけです。それから皆さんに「感じる」ことを取り戻して欲しかったのもあります。音を聴いたり映像を見て体感してもらおうことが『LISTEN.』のもうひとつの重要なテーマです。

司会 10年間の旅の中で印象に残った場所はどこでしょう。

山口 どこも忘れられません、特に心に残っているのはジョージアです。世界無形文化遺産にも登録されている、男声合唱によるポリフォニー（多声音楽）があり、山奥の村に山岳民族を訪ねました。彼らはスピーチとアカペラの歌を交互に繰り返す乾杯の儀式を延々と一晩中続けます。その歌声の美しさと、歌によって高まっていく一体感をまざまざと感じる体験は本当に感動的でした。

インド体験も忘れられません。実は私は極度のビビリ症なため混沌としたイメージがあるインドを敬遠していたのですが、インドの音楽文化を知らないでは済まされないので一大決心をして南インドのチェンナイに行きました。そこで出会った収穫祭で人々が神に捧げる歌を聴いた瞬間に私の気持ちはI Love Indiaに大逆転しました。

旅で知った日本の価値と魅力

司会 『LISTEN.』で紹介している、騎馬文化を追いかける旅も興味深いものでした。

山口 『LISTEN.』のスタートはハンガリーからでした。ハンガリー人は東から来た騎馬民族の血を引いており、ルーツである東洋への憧れやリスペクトがあります。バルトークやコダーイといった偉大な作曲家を

生んだ音楽文化は見事ですが、その底流には彼らのルーツである騎馬民族の血に受け継がれてきた馬の駆けるリズムがあるような気がします。

ヨーロッパの国々で日本の音楽との共通点を感じることも多く、ハンガリー音楽だけでなくポルトガルのファドに感じる懐かしさにも、東洋との強いつながりを感じざるを得ませんね。ギリシャでは「これ日本の歌謡曲？」と感じる楽曲があったり、クレタ島では漁師たちが「えんや〜とつと」と歌っているように錯覚した経験もあります。

司会 日本の音や音楽を取り上げる計画はありますか。

山口 最近、日本再発見を映像に収めたYouTubeチャンネル「山口智子の風穴!？」を始めました。そこで少しずつ日本の音楽も取り上げていくつもりです。各地の音楽文化を発掘して一緒にもの創りに取り組むパートナーも探しているので、良い情報をご存じでしたら皆さんにも教えていただきたいですね。

司会 旅行そのものについて伺います。どんな旅をすることが多いですか。

山口 夫（俳優の唐沢寿明さん）は車の運転は好きなのですが、それ以外の乗り物で行く旅行には関心がないのでほとんど私は一人旅です。唯一、夫が関心を示すのは美味しい物。特にタバスの居酒屋料理が好きなのでスペインやポルトガルに同行したことはありますが、観光には興味がなくて昼間はホテルに籠りっきりなので、私は一人で街歩きをしたり美術館へ行ったりしています。

司会 旅行前の情報収集は念入りにしますか。



山口 『LISTEN.』関連の旅ではかなり念入りにしますね。本をどっさり読んで CD も何十枚も買って、必ず事前のロケハンに行きます。ただ最近では事前の情報収集の方法も変化してきました。あらゆる情報がネット上にありますから、YouTubeなどを大量にラフに眺めたりもします。そこから予期しなかった興味深い情報に出会うこともあって面白いですよ。

ただし本番の旅行では、事前の情報をいったん忘れて、その場で感じる「体感」を重視する。それは変わりません。

司会 旅行の計画はどのように立てますか。

山口 テレビ番組の制作では現地のコーディネーターを頼り、短時間で効率的な計画を立てて撮影を済ませます。けれども『LISTEN.』の取材や撮影はそういうわけにはいきません。だいたい2~3週間は滞在して時間をかけて取材します。撮影場所や背景も照明も、徹底的にこだわります。自分の中で「美しい暗闇復活委員会」を立ち上げるくらい、明るすぎる映像は好きじゃないので照明にはかなり時間をかけています。

年齢を重ねて変わる旅行スタイル

トラベル懇話会 ここからは会場から質問をいただきます。

フィンコーポレーション・美甘小竹社長 旅行会社に旅を依頼したり旅行手配を頼んだことはありますか。

山口 一度もないです。というのも「既製の」とか「人と同じ」とかを極力避けてきたので旅行会社さんと縁がありませんでした。でもそんな“反抗期”を経て私も変わってきましたし、旅行業界もコロナ禍を経て変革しつつあると思います。私が重視する、時間をかけて体感する旅に寄り添ってくれる、そんな旅行会社さんに期待します。

エムオーツーリスト・坂西豊社長 山口さんと同い年の60歳なのですが、年齢によって旅の楽しみ方に変化はありますか。

山口 ありますね。昔と違って最近は疲れない旅も良いと思います。目的なくただ何となくどこかへフワッと連れて行ってもらえる楽な旅がしたい。そんな風にも思います。



インテージテクノスフィア・酒井和子社長
印象に残っているロケ地は場どこですか？

山口 『純ちゃんの応援歌』は奈良県吉野の山奥の小学校で撮影したのですが、そこに立つことで、リアルな感情を伴った自然な形で主人公を演じることができました。演技初体験の記憶とともに、本当に美しく静かな情景が思い出されます。

三越伊勢丹ニッコウトラベル・飯沼寿也社長
ファッションへのこだわりは？

山口 人と同じ装いとか、ありきたりのブランドや流行のファッションは避けたいですね。周りをハッピーにして自分も着ていて楽しい服装を意識しています。色もキレイな色、明るい色を好んで着ます。民族衣装もいいですね。旅先でいっぱい購入するので帰りの荷物はいつも2倍になります。あとは自然素材。やはり職人さんが自然素材を着やすく薄く柔らかく仕立てた服は全然疲れない。旅するごとに自分で人体実験してたどり着いた結論です。

東武トップツアーズ・百木田康二社長 最近注目されている昭和の音楽についてはどう思いますか。

山口 テレビっ子でしたから茶の間に流れる、これぞ歌謡曲という歌を口ずさみながらで育ちました。ギリシャの歌を聴きながら「これって舟木一夫さんの歌？」と錯覚するような体験をすると、日本の歌謡曲には世界中の要素が入っているのかなとも思います。海外で「ふるさとの歌を歌って」と言われると迷ってしまいますが、思いつくのはやっぱり歌謡曲だったりしますね。

TEJ スペシャルサポーターのメッセージ
世界は出会うべき感動と輝きに満ち溢れていますし、そんな出会いが地球をますます愛おしい存在と感じさせてくれます。だからこそ多くの人に世界を知る旅に出てほしい。旅を通じて世界の輝きを伝える同志の皆さんと一緒に励んでいきましょう。

<Profile>

やまぐち・ともこ ●1964年生まれ。NHK連続テレビ小説『純ちゃんの応援歌』で俳優デビュー。ドラマ『ロング・バケーション』(96年)、映画『春に散る』(23年)など出演作多数。世界を旅して出会った音楽文化をライブラリー化する『LISTEN.』プロジェクトを開始。23年「兼高かおる賞」受賞

